

Banco de Tokyo-Mitsubishi UFJ Brasil S/A



1. マーケット・レート

			10月13日	10月14日	10月15日	10月16日	10月17日	Net Chg
Forex	USD/BRL	Spot	2.3940	2.4000	2.4580	2.4730	2.4350	-0.0380
	USD/YEN	Spot	106.80	107.07	105.95	106.33	106.88	+0.5500
	EUR/USD	Spot	1.2754	1.2661	1.2833	1.2807	1.2760	-0.0047
	BRL/YEN	Spot	44.61	44.61	43.11	43.00	43.89	+0.8900
Swap	Dollar Clean	6MTH(p.a.)	1.38	1.41	1.37	1.41	1.41	-0.0030
		1Year(p.a.)	1.82	1.77	1.72	1.78	1.83	+0.0510
Real Interest	6MTH(p.a.)		11.01	11.41	11.48	11.51	11.44	-0.0720
		1Year(p.a.)	11.80	11.76	11.90	11.94	11.85	-0.0900
Stock	Bovespa		57,957	58,015	56,135	54,298	55,724	+1,425.46
Bond	CDS Brazil 5y		160.93	159.00	165.04	164.17	154.00	-10.1650
	Global 40		108.850	108.850	108.500	108.800	108.400	-0.4000

* これらはインターバンク市場等におけるブラジル市場終了時のインデイケーションです。実際のレート提示は弊行担当アカウント・オフィスまでお問い合わせ下さい。



2. 主要経済指標

3. 要人コメント

イベント	予想	実績	前回	コメント
FIPE CPI-週次	0.40%	0.34%	0.32%	なし

4. 週間市況、トピックス

- 今週の為替相場はU\$1=R\$2.3920で寄り付いた。
- 先週末に発表された世論調査では、ネベス候補が現職ルセフ大統領の支持率を上回った。これを受け、新政権発足への期待感から週初のレアルは前週引けよりも400ポイント弱レアル高で寄り付いた。しかし、前週にIMFが世界経済見通しを下方修正した事や、欧州経済の弱含みを背景に、マーケットではリスク回避姿勢が強く、レアルは総じて軟調推移した。週初に発表された伯中銀のアナリスト調査において2014年のGDP成長率予想が0.24%から0.28%に20週間振りに上方修正されたことを受けて週間高値となるU\$1=R\$2.3800をつけたが、その後のレアルは弱含みとなった。
- 週央にかけては原油価格の下落を背景にコモディティー企業を中心に伯主要株価指数が軟調推移し、レアルもジリ安となった。伯登録雇用創出合計が予想を大きく下回ったことや、米国小売売上高やニューヨーク連銀景況指数が予想を下回ったことを受けて、リスク資産売りが強まつたこともレアル売りをサポートした。
- 週末にかけては、政権交代した場合、現在行われているレアル安抑制の為替介入プログラムが早々に打ち切られるとの思惑から週間高値となるU\$1=R\$2.5060を示現したが、9月米鉱工業生産が市場予想を大きく上回ったことを受けて米国株式が反発すると、レアルも反転した。
- 米9月住宅着工件数やミシガン大消費者信頼感指数などが予想を上回ると、米国株式が続伸し、伯株式も上昇した。レアルは買われ、2.42台半ばまで買われた。結局U\$1=R\$2.4350で越週した。

当資料は相場情報の提供を唯一の目的としたもので、投資勧誘を目的としたものではありません。投資の最終決定は投資家ご自身の判断でなさるようお願い致します。当資料は信頼できる情報源から得た情報に基づき作成したものですが、その情報の正確性、安全性を保証するものではありません。また、過去の結果が必ずしも将来の結果を暗示するものではありません。当資料は執筆者の見解に基づき作成されたものであり、弊社の統一された見解ではありません。当資料を使用することにより生ずるいかなる種類の損失についても弊社は責任を負いません。

Banco de Tokyo-Mitsubishi UFJ Brasil S/A



5.来週発表される主要経済指標

日付	イベント	期間	予想	前回
10/20	IGP-M Inflation 2nd Preview	Oct	0.03%	0.31%
10/20	貿易収支(週次)	Oct-18	--	-\$96M
10/20	税収	Sep	94289M	94378M
10/21	IBGEインフレ率IPCA-15(前月比)	Oct	0.50%	0.39%
10/21	IBGEインフレ率IPCA-15(前年比)	Oct	6.63%	6.62%
10/22	FGV CPI IPC-S	Oct-22	0.50%	0.49%
10/23	失業率	Sep	5.1%	5.0%
10/24	FGV消費者信頼感	Oct	--	103.0
10/24	経常収支	Sep	-\$7000M	-\$5489M
10/24	対内直接投資	Sep	\$4000M	\$6840M

6.来週の為替市場注目点

予想相場レンジ：2.40—2.50

今週はブラジル大統領選挙の決選投票を巡ってリアルはボラタイルな展開となった。IMFの世界経済見通しが下方修正され、ドイツを始めとする欧州経済の減速が見られる中、マーケットでは総じてリスク資産売りの動きが顕著となった。ブラジルについては貿易収支や雇用指數などの経済指標が予想を下回ったことに加え、仮に政権交代があった場合には新政権がリアル安抑制の介入プログラムを早々に切り上げるとの報道もあり、リアルは総じて軟調だった。

米国については先週末にFRBのフィッシャー副議長が、世界経済が想定よりも弱かった場合、FRBが金融正常化のペースを弱める可能性があることを示唆したことから、市場に織り込まれていた早期利上げ期待が剥落し、ドルは対主要通貨で軟調推移した。ドル円は9月以来となる105円台前半までドルが売られ、ユーロも反発したが、週後半は米国の住宅指標を中心に経済指標が強かったことからドルが反発した。

来週は鉱工業生産を始めとする中国の一連の経済指標に注目。弱ければリスク資産売りとなり、リアルは反落すると思われる。米国では住宅関連指標が数多く発表される予定。リアルは大統領選挙の決選投票の最終週として様々な憶測が交錯する。

当初は現行政権維持なら失望感から伯株安、リアル安。政権交代なら伯株高、リアル高という構図であったが、新政権が為替介入をストップする可能性があると報じられてから必ずしも政権交代がリアル高の思惑に繋がらなくなっている。直近の世論調査ではネベス候補が優勢との報道もあるが、一次選挙で世論調査が結果と乖離したことから、余り当てにはならないと思われる。結局、現行政権維持の場合は、構造改革が進まないことからリアル売り、政権交代の場合でも為替介入停止によりリアル安という形で、どちらに転んでもリアル売りが優勢になる可能性が高いと見ている。選挙前にポジションを一方向に傾けづらいことから、リアルが直近のレンジを大きく抜けることは想定しづらいが、リアルは上値の重い展開となりそうだ。